

いこいの村 とくらの家

題字 梅の木寮（ユニット型）

2011年（平成23年）3月20日発行

第346号

発行責任者 いこいの村聴覚言語障害者センター

所長 柴田 浩志

編集 いこいの村編集委員会

〒629-1242

綾部市十倉名畑町久瀬谷2番地

TEL (0773) 46-0101

FAX (0773) 46-0610

<http://www.kyoto-chogen.or.jp/ikoi>

いこいの村・とくらの家 竣工式間近



建設中の「とくらの家」

大雪に
見舞われましたが
工事は順調に
進んでいます



金下建設 建築部工事長
安達 學 様

認知症対応型グループホーム
『いこいの村・とくらの家』が完
成間近です。

地域の方々に期待の声を寄せ
いただき、住み慣れた地域で一人
ひとりが大切にされる家を目指し
準備を進めています。

来る三月二十八日（月）の開所
式を前に、三月二十六日（土）の
午後一時～四時地域の皆様方に施
設内部をご覧いただきたく、内覧
会を予定しております。ぜひ、お
越し下さい。

（いこいの村・とくらの家

開設準備チーム 高橋信代）

娘さんからの手紙

「お母さん、帰るとこあって良かったね。」



梅の木寮ユニット型空の家

で過ごされている波多野リエノさん(九十四歳)は、奥上林の古和木にある自宅で、九十歳まで生活されています。難聴で、コミュニケーション手段は主に筆談です。



写真とともに手紙をいただきました

紙が届きました。嘉田さんが撮られた季節の写真とともに。



熱心に読まれるリエノさん

娘の嘉田さんは綾部市内で美容院を営まれています。お母さん想いの嘉田さんは忙しい中、時間を割いて会いに来てくださいます。

そんな嘉田さんから先日手

さっそく、手紙をお渡しし

ました。最近、ウトウト過ごされることが多いリエノさんですが、その日は声に出して手紙を何度も読み返されました。そして涙くみながら「ありがとう!」と手を合わせました。

いこいの村にいられた頃は



敬老会後の食事会にて

よく「古和木の家に帰るんや!」とおっしゃいましたが、今ではここ空の家がリエノさんの家です。これからもたくさん笑顔を見せてくださいな。

(梅の木寮ユニット型

笹田大輔)



紅葉美しい築山のもみじ前にて

娘さんのご了解を得てお手紙の一部をご紹介します

いただきます。

先日、「いこいの村の新聞」といっしょにクリスマス会のスナップが届きました。お母さん、楽しそうに笑ってましたね。時々訪ねても寝ている時が多くて…。やお母さんの笑顔に逢えました。

お母さんの九十二歳のお誕生日に上林の家に連れて帰ってもらった事がありましたね。誕生日が11月でしたから、そろそろ木枯らしの吹く季節ですが、その日は小春日和のとても暖かい一日でした。

花作りが好きだったお母さん、家のまわりは一年中、季節の花がいっぱいでした。11月は大輪の菊や色とりどりの小菊が懐かしいです。

お母さんがいこいの村にお世話になってから、この家は、すっかり動物たちの遊び場となり、宿根草の根っこまで鹿たちのエサになり、一輪の花も見あたりません。唯一、築山のもみじの古木だけは美しく紅葉して、私達を待っていてくれました。

突然、「寒むなるから早よう帰ろ」とお母さん。「今来たところのやのに…。どこへ帰るの、ここはリエノさんとこやでえ。」皆で大笑い、賑やかな事でした。

耳が遠くなり、おしゃべりが出来なくなるにつれ、朗らかだったお母さんの笑顔が消えていくのをとても淋しく思っていました。「お母さん、帰るとこあって良かったね。」

見送る私たちに手を振ってくれた笑顔が忘れられません。笑顔のプレゼント!をありがとう!

娘より

「介護食」と自立支援

「しっかりと自分で食べたい」



普通の食事が食べにくくなられた方には、おかゆ、おかゆのミキサー、おかずの刻み、超ぎざみ、ミキサーなどの介護食を提供しています。

「やわらかく、食べやすく」

おかゆは米と水分が分離し「へん」なるようにとろみの粉を混ぜたり、おかゆをミキサーにかけて、ゼリー状に固めています。おかゆの味付けは濃いのを好まれる方には、海苔佃煮や梅びしおなどを加えます。



行事時のミキサー食



栄養補給食品

おかずは鶏のから揚げやとんカツなど硬く噛みにくいものがあります。そのような時は、鶏ミンチに玉ねぎ、人参のみじん切り、片栗粉、豆腐を混ぜ、蒸したものにあんをかけて、飲み込みやすくしていきます。

さらに食欲が細くなった方には様々な栄養補給食品や、水分補給のためにゼリーなどを準備します。

食べにくくなられた方にはお好きな食べものを準備することで元気を取り戻してもらえるところもふくまっています。

「しっかりと」

食べるということは、食べ物を入れてから飲み込むまでに歯や舌の機能だけでなく様々な筋肉を使います。口でかむことで脳や舌の筋肉を使い全身の機能を向上させます。

その筋力を維持するためにも歯ぐきでかめるムース食やソフト食へ移行していきたいと思っています。

「家庭でも「食事を柔らかくする」ことと共に、虫歯や歯周病を治したり義歯を使用し「しっかりとかめる」ことを大切に自立した生活を送っていただきたいと思っています。

(給食係栄養士 渡辺紀子)



介護食器のいろいろ



いこいの村
聴覚言語障害センター
所長 柴田 浩志

先日、お坊さんのお話を聞く機会がありました。「人は皆PPK、すなわち『びんびんころり』と、病気に苦しむことなく、元気に長生きし、病まずにコロリとしぬことを願うが、なかなかそうはいかないのが世の常」とのことでした。

高齢者が高齢の親を介護したり、長期間の介護に携わっている方が増えてきています。去る二月十九日に「介護者の集い」を開催したところ、十三人の方にご参加いただきました。

これは、介護をされている方々が集い、思いを互いに話し合うことで、介護に関する情報を共有し、介護者が元気になっていただくことを目的としています。午前中はお二人の方に介護体験を語っていただき、昼食の後は、簡単なレクリエーションやグループに分かれて話し合われ

ました。

集いが終わった夜に、当法人の役員の方から、「大変良い会でした。皆さん率直に日頃の思いを語られ、交流されていた。今後も開催してほしいし、もっとたくさんの方に参加していただきたいですね」との電話をいただきました。

参加者のアンケートには、「ストレス発散を上手にされておられ、参考になりました」「認知症の方への介護はとても大変だけれども、楽しい時間を持つ知恵を学ばせていただきました」「男性の介護教室を開催してほしい」等の意見がありました。

急に介護ができなくなった時の支援や、ヘルパーなどによるきめ細かな支援等、いこいの村として、今後検討していくべき課題も明らかとなりました。



介護者のつどい

